

海外学生派遣事業 終了報告書

2008年5月21日

物理科学研究科 宇宙科学専攻 荻芳郎

海外派遣先国: カナダ

海外派遣先大学: McGill University

海外派遣先大学所属: Department of Mechanical Engineering

海外派遣期間: 2008年2月25日 ~ 3月21日

1. McGill University について

カナダのモントリオールにある McGill University は、1821年に設立され、カナダでも有名な公立大学である。メインキャンパスは街中にあり、3万人以上の学生を有する。



街中にあるキャンパス



研究施設

2. 本学を選定した経緯

博士課程の研究テーマが人工衛星向けに開発中のアンテナ構造物についてであり、展開式柔軟構造物と衛星姿勢との連成解析を行っている。これについて関連研究を行っている研究者の名前を総研大の指導教官に何名か挙げてもらい、何度か文献で拝見したことのある Misra 教授を選んだ。これまで、総研大指導教官も私も Misra 教授とは面識がなかったが、受け入れを打診したところ、快諾していただいた。

3. 海外派遣前の準備

モントリオールの冬は厳しいと聞いていたが、年度内の博士学位取得を目指していたため、博士論文の審査終了後である2~3月に訪問することにした。2年前に同様の研究活動でアメリカに3ヶ月滞在した際、住居探しに大変苦労した経験があったので、今回は早めに住居探しを始めた。幸いにも、朝食無しであるが1ヶ月700カナダドル程度で部屋を貸してもらえ、いわゆる Bed & Breakfast が見つかり、4ヶ月前には住居が決まった。

4. 海外派遣中の勉学・研究

博士論文をまとめた後であったので、これまでの研究成果についてのコメント、及び今後の研究方針についてアドバイスをもらうことを最低限の目標とし、説明資料を用意した。到着後、大学に対しては特に登録などを行わなかったが、机やコンピュータなどの研究環境を用意していただいた。授業等には参加せず研究活動のみを行った。滞在中、ゼミなど研究室のイベントは特に無かった。滞在期間があまりにも短く、具体的に研究を進めることができなかったが、ディスカッションを行い、帰国後の研究方針に非常に有益なアドバイスを得ることができた。

5. 海外派遣中に行った勉学・研究以外の活動

モントリオールは日本でも有名な都市と思われるので、紹介は省略するが、時事的な話題について述べる。まず、今年は雪が記録的に多らしく、除雪に要する州の予算が尽きてしまい問題になっていると聞いた。関東育ちの私にとってこの寒さは厳しかった。特に、週末旅行でケベックシティに行く際、雪道のバスに比べて安全・確実であろうと電車を選んだが、前日の大雪で出発が大幅に遅れた上、電車が故障してしまい、タクシーに乗り換えさせられたのは驚いた。しかし、モントリオールは地下街が発達しているかなり便利であること、お祭りやすばらしい雪景色など、冬でしか体験できないことも多くあり、この時期に行ったのは良かったと思っている。

モントリオールはフランス語と英語を主に使う都市であり、研究や生活では英語を利用して特に問題は無かった。

食事については、滞在した Bed & Breakfast にキッチンや調理器具が備わっていたので自炊が可能であった。ただ、カナダは世界中の料理を手軽に食べることができ、また地方料理やスモークドミート、ベーグルの有名な店もあり、いろいろ誘惑が多く、半分自炊半分外食であった。



滞在先の B&B から見た大雪



ケベック料理

謝辞

本派遣にあたり、多くの方々にご支援いただきました。ここに感謝の意を表します。

以上